



薬の伝言板 慢性疼痛と鎮痛剤



No. 309 2023年8月

丸子中央病院 薬局

慢性疼痛とは？

慢性疼痛とは、国際疼痛学会で「治療に要すると期待される時間の枠を超えて持続する痛み、あるいは進行性の非がん性疼痛に基づく痛み」と定義されています。

原因ごとに異なるものの、おおむね3~6か月以上持続する痛みとされることが多いです。

痛みの分類として「しんがいじゅうようせいとうつう侵害受容性疼痛」、「しんけいしょうがいせいとうつう神経障害性疼痛」、「しんりしゃかいできとうつう心理社会的疼痛」などがあります。

- 侵害受容性疼痛：切り傷、挫創、骨折、挫滅創、熱傷など組織が傷つくすべての痛み
- 神経障害性疼痛：神経が障害されそれにより起こる痛み、たいじょうほうしんごしんけいづう帯状疱疹後神経痛や糖尿病の合併症、ざこつしんけいづう坐骨神経痛やけいついしやう頸椎症など
- 心理社会的疼痛：慢性的なストレス、強いストレスなどが蓄積することで身体に生ずる痛み

急性期の痛みでは痛みを速やかに改善できれば解消されますが、慢性疼痛ではこれらの痛みの原因が密接に関連し、特に心理的原因の比重が高く、痛みが長引く特徴があります。



慢性疼痛治療ガイドラインによる治療目的

米国麻酔科学会と米国区域麻酔・疼痛医学会は、医療目的として以下の4項目を挙げています。

- ① 痛みのない状態にすることは成し遂げられないとの認識をもって治療管理を最適化する
- ② 機能的な能力、身体的・精神的健康を向上させる
- ③ 患者のQOLを向上させる
- ④ 有害転帰（副作用）を最小化する

上記の様に、副作用をできるだけ少なくしながら痛みの管理を行い、QOLやADLを向上させることが基本とされています。

つまり治療の目的



は何か？

誤) 痛みの完全除去
=全く痛みを感じない



正) 強い痛みを中程度レベルに軽減する程度
=痛みを感じるが、歩けるようになった、眠れるようになったなど



具体的な事



慢性疼痛治療に対する使用薬物

	薬物名	適応疾患	副作用・注意点
NSAIDs	シクロフェナク	変形性関節症、腰痛、頸肩腕	消化管障害、腎機能障害、心血管イベント、喘息 
	ロキソプロフェン	症候群、肩関節周囲炎、その	
	セレコキシブ	他疼痛全般	
アセトアミノフェン	アセトアミノフェン	疼痛全般	消化器症状、肝・腎機能障害
ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液含有	ワクシニアウイルス接種家兔炎症皮膚抽出液含有製剤	帯状疱疹後神経痛、腰痛症、頸肩腕症候群、肩関節周囲炎、変形性関節症	悪心、発疹 
三環系抗うつ薬	アミトリプチン	うつ病、末梢神経障害性疼痛	眠気、めまい、倦怠感、悪心、口渇
SSRI	パロキセチン	うつ病、パニック障害、強迫性障害など	眠気、めまい、倦怠感、悪心、口渇 
	セルトラリン	うつ病、パニック障害、外傷後ストレス障害	
SNRI	デュロキセチン	うつ病、線維筋痛症、糖尿病性神経障害、慢性腰痛症、変形性膝関節症	悪心、眠気、口渇、頭痛、倦怠感
鎮痛薬 (神経障害性疼痛)	プレガバリン	神経障害性疼痛、繊維筋痛症	眠気、めまい、体重増加、浮腫
抗不安薬	エチゾラム	神経症、心身症における不安・緊張・抑うつなど	眠気、めまい、筋弛緩作用、依存性
オピオイド鎮痛薬 	トラマドール	慢性疼痛、がん性疼痛	眠気、めまい、悪心・嘔吐、便秘
	トラマドール・アセトアミノフェン	慢性疼痛、抜歯後の痛み	眠気、めまい、悪心・嘔吐、便秘
	モルヒネ	慢性疼痛、がん性疼痛	悪心・嘔吐、便秘、呼吸抑制、精神依存・乱用・誤用 
	フェンタニル貼付剤	慢性疼痛、がん性疼痛	悪心・嘔吐、便秘、呼吸抑制、精神依存・乱用・誤用



慢性疼痛の治療薬は上の表の様に、単純に痛み止めだけでなく様々な種類の薬に効果が認められています、なので沢山の種類の薬を併用する可能性があります。
沢山の種類の薬の併用には沢山の副作用のリスクもあります。
 医師とゴールについてよく相談しながら服薬をすることをお勧めします